

成田のむかし15

病気のこと



成田市立図書館

病気について

「昔は医学が進歩していなかったから、病気のおまじないも多かったよ。小さい子がまず経験するのが『モンベエ』だな。」

「モンベエって？」

「松崎の紋兵衛さんの家に伝わるお灸でね、この灸をやいておくと、腹下りをしないというんだよ。」

「おじいさんもやいたの？」

「ああ、やいてもらってね、大泣きしたって、あとでみんなに笑われたよ。その他、ジンマシンができてね、これは左縄をなつて軽くこする。その縄へ火を付けるとパチパチとはねる音がして、ジンマシンのバイキンが死んでしまう。それで治るんだそうだ。」

「おちんちんが腫れたこともあったな。おばあさ

んに話したら『ミミズに小便をひっつけたので、エレキに当てられたんだ』という。そこで、ひしゃくへ水を汲んで、小便をした所へ行き『ミミズを三度洗います』といって三回水をこぼしたんだ。それで治ったよ。こんな時は神社の裏に金精様といって、六〇センチぐらいの石でできた、おちんちんの形をした神様にお願いするのがいいんだって。」

「女の神様もあるの？」

「ああね、あるよ。淡島様がそうだよ。この神様は住吉明神の妻神だったけど、病気にかったので熊野の淡島へ流されてしまったんだ。そういうことから女の守り神になられたのさ。この神様は特に婦人病にご利益があらたかだといわれているんだよ。」

春のお祭りは三月三日でね、氏子の家では朝早く草餅を上げて置く。しばらくすると次の人

- 2 -

が、やはり草餅を持って来て上げて、前に上げてあった草餅をいただく。このお餅をいただくご利益があるといわれているんだ。こうして順々に上げたり下げたりがくりかえされるんだな。」

次は咳の婆様と薬師様の話をしよう。

咳の婆様（しやあじきばあ）

みなみはどり かんのにじ
南羽鳥の観音寺から、北羽鳥の常蓮寺へ通ずる道があります。その道の右側に六部塚という標柱が立っています。そのそばには大きなシキミの木があり、その枝には何十本かの竹筒が下がっています。ここが「咳の婆様」又は「しやあじきばあ」と呼ばれる咳の神様です。

これには次のようなお話があります。

治左衛門さんは明和（一七六四〜七二）の頃、南羽鳥の名主をしておりました。

ある日のこと一人の浪人が、名主を頼って来ま

- 3 -

した。そして浪人は名主の家に住みつくようになりまし

た。いつの間にか浪人の許へ、一人二人と子供達が集まり、読み書きの勉強を教わるようになりまし

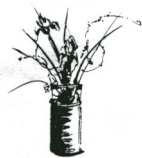
た。欲得をはなれた浪人は、親切に教え

— 4 —

浪人は治左衛門さんの道端の畑へ埋められ、お墓の目印にシキミの木が植えられました。これが咳を静めてくれる神様なのです。

風邪をひいて咳で苦しむ時は、竹筒へお茶を入れてシキミの枝にかけ、お願いするのです。すると不思議にも咳が軽くなり、しのぎやすくなります。いつの間にかこのことが口づてに伝えられ、多くの人々がお詣りに来るようになりました。たくさん竹筒が下げられているのはそのためです。

薬師様



南羽鳥の字向山に薬師様と呼ばれるお堂があります。このお堂はもと大日如来のお堂でしたが、いつの頃からか薬師如来が合祀されました。薬師如来は病気を治して下さるということから、人々は「薬師様、薬師様」と呼ぶようになりました。

— 5 —

薬師如来は左手に薬壺くすりつぼをお持ちになつております。薬壺は寿命じゅみょうを延ばし、医薬いやくの利益りえきをもたらして下さるのです。特に目や口や耳などの病気を治して下さいます。

昔は、目の病気に鳥目とりめといつて、夕方、日の光りが弱くなると、物が見えなくなる病氣の人がよくいました。また、湯手ゆでといつて、お湯へ入る手拭てぬぐいが一本、家族共用でした。ですから一人が目の病やまいにかかると家族みんなに伝染でんせんしてしまうこともありました。

口の病では口の中が腫はれて、熱いものや塩辛しおからいものがしみて痛い病氣。それから虫歯が痛むとか、歯ぐきが柔らかくなつて、歯がゆるんでしまうなどの病氣がありました。

この他にも昔の人は、他人たにんからうらまれて苦しんだり、死んだりすることもあると信じていました。ですからそれらの苦難くなんを除いて下さる

薬師様は最も頼りがいのある仏様ほとけさまでした。そこで人々は、薬師様に心からお祈りいのを捧げました。

こうして病氣の治つた人々が増え、薬師様の評判ひょうばんが次第しだいに高まりました。病氣を治していただいた者の中には、お礼に土地を差し上げる者もありました。薬師様の田とか畑として今も残つております。

また信者しんじやの方々は、旧暦きゅうれき六月八日を縁日えんにちとし、南羽鳥中の年寄り達が集まって念仏ねんぶつを唱え、うどんなどを食べて一日を楽しみました。

境内にある大きなモクレンの木は、目薬めぐすりの原料げんりょうになるといふことです。また、南側にはきれいな清水しみずの湧く井戸いどがあり、この水をいただいて飲んでいけば、病氣にかからない、などの言い伝えいっただいがあります。



考え方

「おじいさんの話、おもしろかったけど、うそみたいなところもあるね。」

「うん、わたしもそう思うよ。うそかほんとか、役に立つか立たないか。まず第一にこういう見方が必要だからね。だけどおまじないなんでもものは、一〇〇年も、もつと前から言い出されたことだと思ふんだ。だからその時代の文化や文明の開け方を頭に置いて考えてやる。これがいまいりのある見方なんだよ。」

うそやほんとを別にして考えてみようよ。神や仏を怖れ敬い大切に。信心する者同志で縁日を作ってお祭をする。そしてお祭のあとで、供えた御馳走を分け合って食べる。こうして気持ちの結び付きを強め、困った時には助け合って暮らす。助けられる人は、助けてくれる人が仏様のように見えるかも知れないね。この

ような仕組みを作った、昔の人々の生活の知恵は、本当にすばらしいと思ふんだ。」



ひるたみつき
蛭田光城先生（一九二〇～二〇〇九年）

先生は、市内で生まれ、育った方です。成田市内の小学校や中学校で長く教えられました。

成田のむかし 15

病気のこと

発行・成田市立図書館

千葉県成田市赤坂一・一・三

電話（0476）27・4646

一九九六年三月

「成田のむかし」 つくりかた

- ① PDFを印刷します。このファイルは，そのままの大きさにA4縦の紙に印刷すると，ちょうどよいサイズになります。Adobe Reader 9なら，“印刷”ウィンドウ“ページ処理”の“ページの拡大/縮小(S)”を“なし”にしてください。
- ② 点線で切ります。
- ③ 表紙， 1 ～最後のページ， 奥付の順番に重ねてください。
- ④ 右側の端に近い所を2か所， ホッチキスでとめると完成です。